AudioComm®

取扱説明書 保証書付

ステレオCDラジオカセットレコーダー

RCD-01K-A / 07-5784
RCD-01K-R / 07-5785
RCD-01K-H / 07-5786

このたびは、AudioComm® ステレオCDラジオカセットレコーダーを
お買い上げいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。
“この取扱説明書をよくお読みの上、製品を安全にお使いください。”
なお、お読みになられた後は、ご使用時にいつでも見られますよう大切に保存してください。

目次

安全上のご注意 …… 2~4
電源について …… 5
ご使用になる前に(CDについて) …… 6
ご使用になる前に(カセットテープについて) …… 7
ヘッドホンの使用 …… 7
各部の名称 …… 8
CDを聴くには …… 9
いろいろなCDの聴き方 …… 10
テープを聴くには …… 11
ラジオを聴くには …… 12
CDからテープに録音するには …… 13
ラジオからテープに録音するには …… 14
お手入れのしかた …… 15
故障かなと思ったら …… 16
主な仕様 …… 17
保証書とアフターサービスについて …… 18
保証書

安全上のご注意

電気製品は間違った使い方をすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階に表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取扱をすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱をすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。 (左図の場合は感電注意が描かれています。)
	○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。 (左図の場合は分解禁止が描かれています。)
	●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。 (左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜く、が描かれています。)

※この製品の故障、誤動作、不具合などによって発生した次にあげる損害などの附随的損害補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- ●お客様または第三者がCD、テープまたは外部接続機器へ記録された内容の損害
- ●録音、再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

⚠ 警告

異常の時はコンセントから抜く

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常を感知したら、すぐに本機の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。
煙が出なくなるのを確認して販売店に修理を依頼してください。

水が入った時はコンセントから抜く

●万一、内部に水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

異物が入った時はコンセントから抜く

●万一、機器の内部に異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

分解禁止

●本体を分解、修理、改造しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁止

●この機器を使用できるのは日本国内のみです。自動車・船舶などの直流DC電源には接続しないでください。
火災の原因となります。

コードを交換する

●電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、使用を中止し、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

水かけ禁止

●浴室やシャワー室など、湿度の高いところや水はねのある場所では使用しないでください。火災や感電の危険があります。

接触禁止
感電に注意

●雷が鳴り始めたら、安全のため電源プラグを抜いてください。

禁止

●表示された電源電圧交流100ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

電池に注意

●本体に使用している乾電池を取り外した場合は、小さなお子様が乾電池を誤って飲み込むことがないようにしてください。
乾電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。
万一、お子様が飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談してください。

禁止

●本体や電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本体の下敷きにならないようにしてください。
コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気づかず重いものをのせてしまうことがあります。

禁止

●付属の電源コード(ACコード)は本製品専用です。本製品をご使用の際には必ず付属の電源コード(ACコード)をお使いください。また、付属の電源コード(ACコード)は絶対に他の製品には使用しないでください。
製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。

禁止

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

禁止	●調理台や浴室、加湿器のそばなど、湯煙や湿気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
禁止	●ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
禁止	●電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
禁止	●窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。
禁止	●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
音量は小さく	●電源を入れる前には、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
乾電池の電極性に注意	●乾電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、表示通り正しく入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
禁止	●指定以外の乾電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
コンセントから抜く	●お手入れの際には安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。 感電の原因となることがあります。
禁止	●CDプレーヤーのピックアップレンズをのぞき込まないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。
禁止	●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
アンテナに注意	●持ち運びする時は、アンテナを折り畳んでください。伸ばしたまま運ぶとアンテナが引っ掛かったり、当たったりなどしてけがの原因になることがあります。
コンセントから抜く	●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。
指を挟まれないように注意	●お子様がカセットテープ挿入口やCDドア内に手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。
音量に注意	●ヘッドホンをご使用になる時には音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
コンセントから抜く	●旅行などで長時間本機をご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜き、乾電池も取り外してください。火災・液もれの原因となることがあります。
禁止	●電磁波を発生させる機器(携帯電話、テレビ、モニター等)に近づけないでください。電磁波によりお互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。

電源について

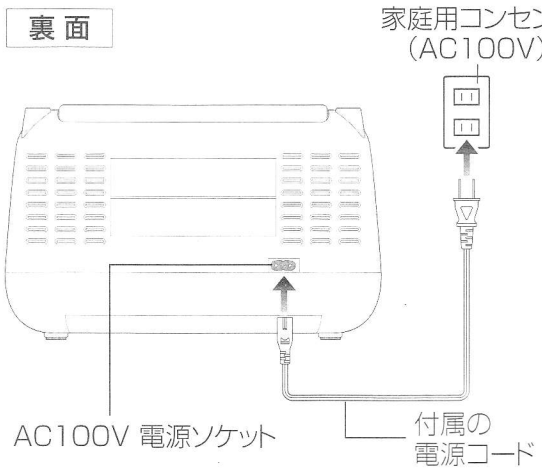
家庭用電源で使う場合

付属の電源コードで本体のAC100V用電源ソケットと家庭用コンセントを接続します。

◆乾電池が入っている場合でも、電源コードを接続すると自動的にAC電源に切り換わります。

◆本機を使用しない時は電源コードをコンセントから外してください。

裏面



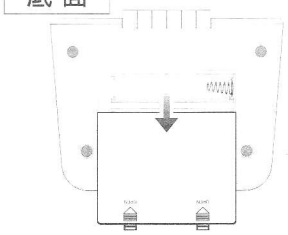
乾電池で使う場合

◆アルカリ乾電池のご使用をお薦めします。

◆電池カバーを外し、乾電池の⊕と⊖を間違えないように、単1形乾電池6本を入れます。

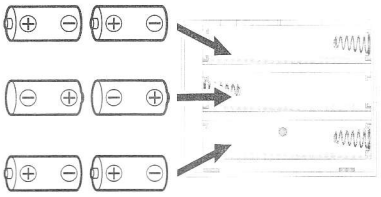
※大切な録音をする時やCDの演奏を聴く時は、付属の電源コードを使用してください。

底面



乾電池の入れ方

本体底面の電池カバーを、矢印の方向に押しながらスライドさせて開けてください。



乾電池の向きを図のように正しく入れてください。コイルばねのあるほうが⊖側です。

単1形乾電池6本使用(別売)

※付属の電源コード(ACコード)は本製品専用です。本製品をご使用の際には必ず付属の電源コード(ACコード)をお使いください。また、付属の電源コード(ACコード)は絶対に他の製品には使用しないでください。製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。

乾電池にて使用時のご注意

・CDを再生するには十分な電力が必要です。したがって乾電池にて使用中にCDの動作に異常が生じた場合は、ただちに製品の故障と判断せず、AC電源(家庭用電源 AC100V)にてお試しください。

・AC電源にて動作が正常な場合、ご使用中の乾電池が消耗してしまった可能性がありますので、すべて新しい乾電池に交換してご使用ください。

・場合によってはご使用中の乾電池が消耗していても、ラジオは正常にはたらく場合がありますのでご注意ください。ラジオは電力消費が少なく、乾電池の残留電力が少量でも作動する場合があります。

・本機を使わない時は、乾電池の消耗を避けるためファンクションスイッチを電源オフにしてください。

乾電池についての安全上のご注意

使い方を誤ると、液もれ、発熱、発火、破裂などにより、火傷や大けが、失明の原因になります。

⚠ 警告

・乾電池が液もれした時は…
液が本体内部に残ることがあるため、弊社修理ご相談センターにご相談ください。液が目に入った時は、失明の原因となる恐れがありますので、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分に洗い、ただちに医師に相談してください。

・機器の表示に合わせて⊕と⊖を正しく入れる。

・充電しない。

・火の中に入れない。

・ショートさせたり、分解、加熱しない。

・火のそばや直射日光の当たるところ、炎天下の車中など、高音の場所で使用、保管、放置しない。

・水などで濡らさない。浴室など湿気の多い場所で使わない。

⚠ 注意

・使い切った電池は取り外す。長時間使用しない時や、長時間電源コード(家庭用電源)で使用する時も取り外す。

・新しい電池と使用した電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。

使用済み電池を破棄する時は…

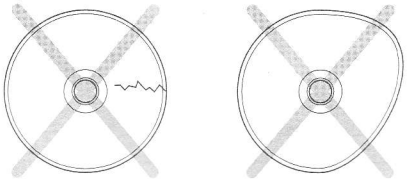
使用済みの電池に関して、自治体の条例などで決まりがある場合には、それに従って破棄してください。

ご使用になる前に(CDについて)

結露について

寒いところから急に暖かいところに移動させると、レンズに水滴がついたり、くもったりする結露現象が起こります。この状態で使用すると、正しく動作しないことがあります。このような時はディスクを取り出して数分間放置してください。結露が取り除かれて正常に動作するようになります。

ディスク使用上の注意点



◆再生中、ディスクはプレーヤー内で高速回転しています。ひびやそりのあるディスク、割れたり変形したディスク、テープや接着剤で補修したディスクなどは危険ですから絶対に使わないでください。

◆ディスクに COMPACT disc DIGITAL AUDIO CD SINGLE のマークが入ったものをご使用ください。

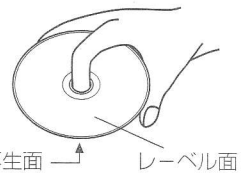
◆現在発売されている「コピーコントロールCD」と呼ばれる著作権保護技術付音楽ディスクは、コンパクトディスク(CD)規格に準拠しない特殊ディスクであり、本製品における再生にあたっては、動作や音質の保証は致しかねます。
音楽ディスクパッケージの表示をよくお読みください。
なお「コピーコントロールCD」の詳細に関しては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

コピーコントロールCD
コピーコントロールCDのマーク

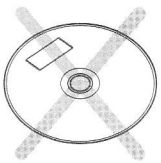
◆本機はCD-R ／ CD-RWの再生に対応していますが、以下の点をご注意ください。
- CD-R ／ CD-RWディスク、レコーダー、書き込みソフトウェアの種類・状態によっては、再生できなかったり、ノイズや音飛びが生じる場合があります。
- ファイナライズ処理がなされていないディスクは再生できません。
- 本機ではMP3やWMAなど、圧縮されたフォーマットの音楽ディスクの再生はできません。

ディスク取扱上の注意

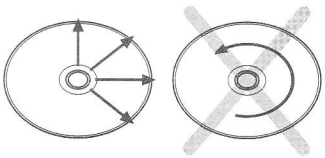
◆再生面に触れないように持ってください。



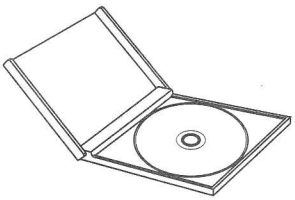
◆再生面はもちろん、レーベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。



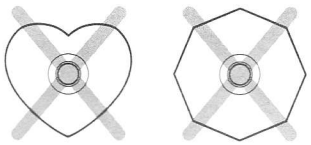
◆ディスクに指紋や汚れがついた時は、柔らかい布などで放射状に軽く拭き取ってください。



◆長い時間使用しない時は、ディスクを本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。



◆ハート型や八角形などの特殊形状のディスクは、使用しないでください。機器の故障の原因となりま

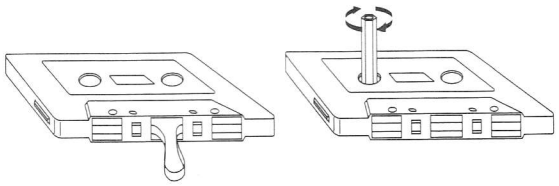


ご使用になる前に(カセットテープについて)

カセットテープの取扱上の注意点

◆テープのたるみは、テープの巻きつきや切断の原因になります。

◆テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいる場合は図のように鉛筆などで必ず直してからご使用ください。



◆カセットテープを入れたままにしたり、再生／録音状態のまま電源を切らないでください。テープが回転部分に密着したままになるので、からみや巻きつきの原因となります。テープは必ず取り出して保管してください。

◆テープの損傷を避けるため、大切なテープやオリジナルテープは必ずダビングし、ダビングしたテープを本機でお使いください。

◆エンドレステープは使用できません。

著作権について

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。

録音時の注意点

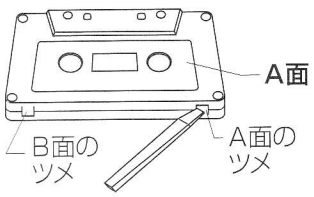
◆ツメを折ってあるテープは録音ボタンの操作ができません。無理に押したりすると故障する場合もありますのでご注意ください。

◆ノーマルテープ(TypeⅠ)をお使いください。ハイポジションテープ(TypeⅡ)やメタルテープ(TypeⅣ)には録音できません。また、ノーマルテープについてもC-60(60分テープ)までのテープを使用してください。C-90以上の長時間テープは通常のカセットテープに比べて非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれる等のトラブルの原因になりますので、ご使用はお薦めできません。

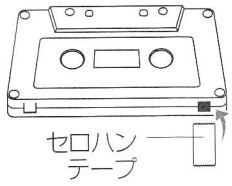
◆カセットテープの両端にあるリーダーテープ部分は録音ができません。録音前にこの部分を送っておきましょう。

大切な録音を消さないために

保存しておきたいテープの場合、カセットのうしろ側にある「ツメ」を折っておくと、間違って大切な録音を消去せずにすみます。再び録音したい場合は、折ったツメの部分にセロハンテープなどを貼りつけてください。



間違って消したくない時は
ツメを折る



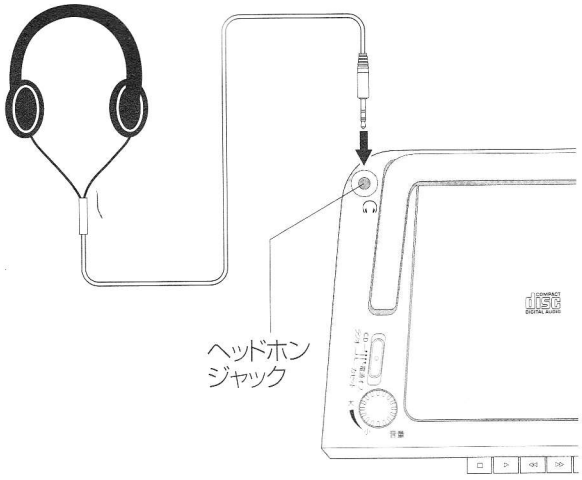
再度録音したい場合は
テープで折った穴をふさぐ

ヘッドホンの使用

●ヘッドホンで聴く時は、別売のステレオヘッドホン(φ3.5mmステレオミニプラグ)をヘッドホンジャックにつなぎます。ヘッドホンをつなぐとスピーカーからの音は聴こえなくなります。

●ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。

●家庭用コンセントでご使用時、ヘッドホンでお聴きになると、ハム音(ラジオなどの音声に混じって聴こえる「ブーン」という音)が耳障りになることがあります。その場合は乾電池にてご使用ください。



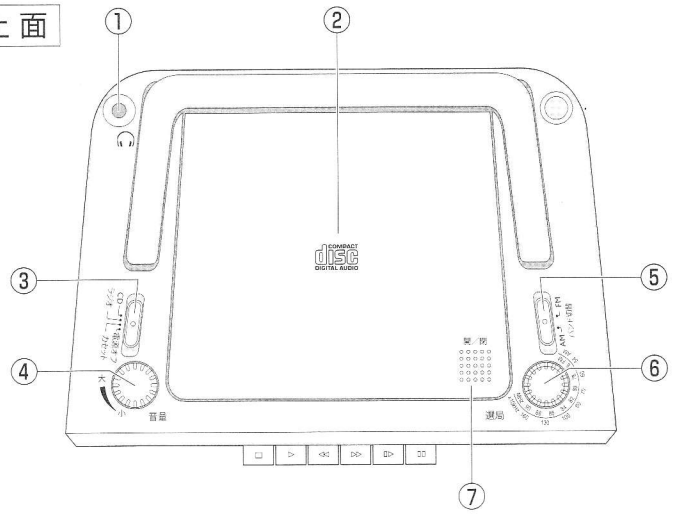
各部の名称

① ヘッドホンジャック
② CDドア
③ ファンクションスイッチ
④ 音量調整ツマミ
⑤ バンド切換スイッチ
⑥ 選局ツマミ
⑦ CDドア開閉スイッチ
⑧ ハンドル
⑨ ロッドアンテナ
⑩ 電源ランプ
⑪ CDディスプレイ
⑫ FM ST.(ステレオ)表示ランプ
⑬ 再生／一時停止ボタン
⑭ スキップ／サーチ(⏮)ボタン
⑮ スキップ／サーチ(⏭)ボタン
⑯ 停止ボタン
⑰ リピートボタン
⑱ プログラムボタン
⑲ カセットドア
⑳ 左スピーカー
㉑ 右スピーカー
㉒ 録音ボタン
㉓ 再生ボタン
㉔ 巻戻しボタン
㉕ 早送りボタン
㉖ 停止／取出しボタン
㉗ 一時停止ボタン
㉘ AC100V電源ソケット
㉙ 電池カバー

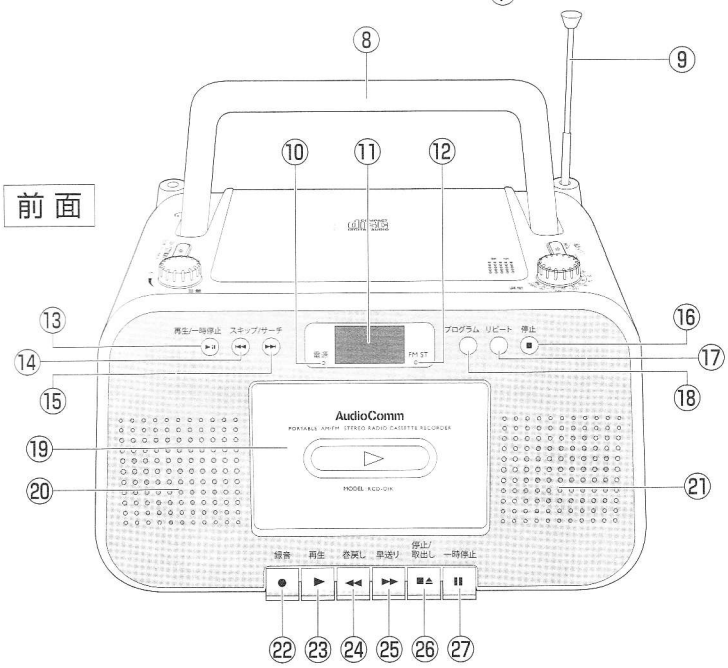
CD操作部

カセット操作部

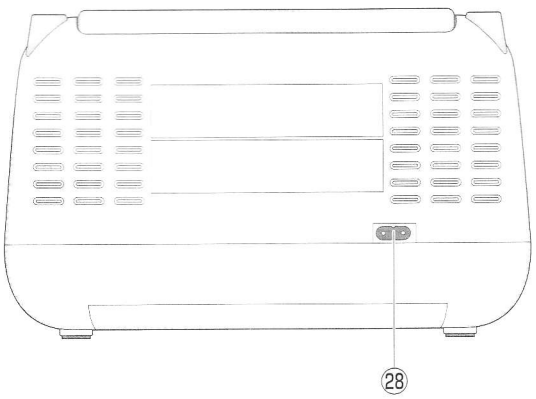
上面



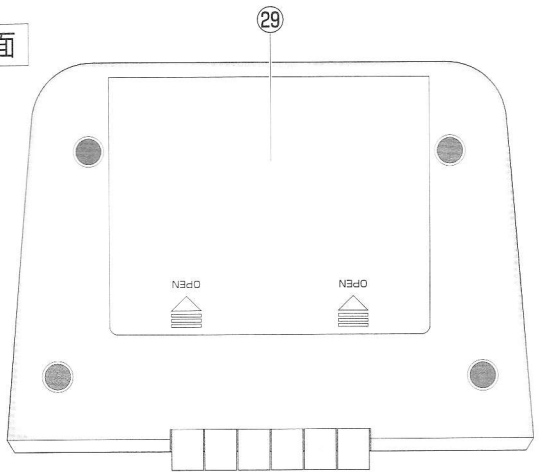
前面



背面

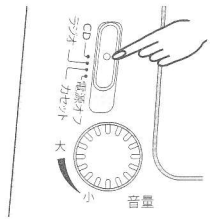


底面



CDを聴くには

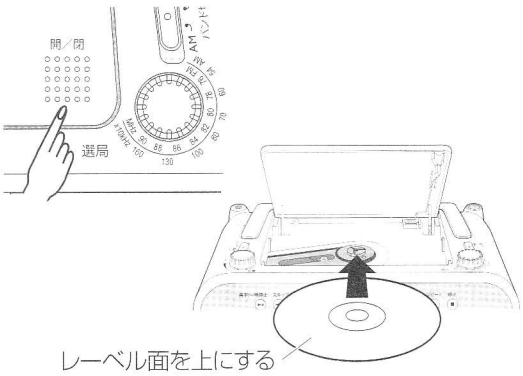
1 上面にあるファンクションスイッチをCDの位置に合わせる



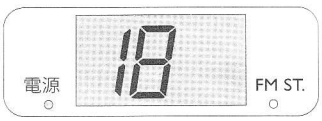
電源ランプが点灯します。

2 CDドア開閉スイッチを押してCDドアを開け、CDを正しくセットする

ハンドルは下ろした状態でCDドア開閉スイッチを押してください。
CDのレーベル面を上にして、中心軸にセットします。



セットした後は、CDドアを手で閉めます。CDディスプレイに「--」が点滅し、しばらくすると全曲数が表示されます。



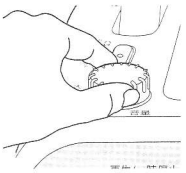
※CDディスプレイに「--」と表示され続けた場合、ディスクが裏返し／不適切なディスクが入っている／ディスクが入っていない等が考えられます。適切なディスクを正しくセットしてください。

3 再生／一時停止ボタンを押す＝再生開始

CDディスプレイに再生中の曲番が表示され、再生マークが点灯します。

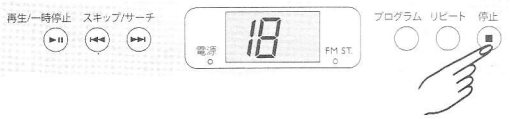
●再生中に再生／一時停止ボタンを押すと、再生が一時停止します（CDディスプレイの再生マークが点滅）。もう一度押すと再び再生が始まります。

4 音量調整ツマミを回して音量を調節する



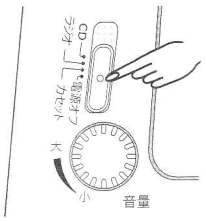
5 再生を止めるときは停止ボタンを押す

●再生を止めるには停止ボタンを押します（CDディスプレイは全曲数表示に戻ります）。



6 CD機能を終わらせる時は、ファンクションスイッチを電源オフに合わせる

電源ランプが消灯します。



スキップ／サーチボタン（⏮／⏭）の機能について

停止中、再生中、再生中の長押しといったそれぞれの状態に応じて、機能が異なります。

	停止中に押す	再生中に押す	再生中に長押しする
⏭	次の曲を選択	次の曲に移動して再生	聴いている曲が早送りされます。指を離した時点から再生を再開します。
⏮	一つ前の曲を選択	曲の頭に戻って再生。2回続けて押すと、ひとつ前の曲に戻って再生します。以降、押す回数によって順次前の曲に戻って再生します。	聴いている曲が早戻しされます。指を離した時点から再生を再開します。

いろいろなCDの聴き方

同じ曲を繰り返し聴くには

1曲リピート再生

1 CD停止中にリピートボタンを1回押す

ディスプレイにREPEATマークが表示されます。

REPEATマーク

※再生中は再生中の曲が繰り返し再生されます。

2 リピート再生したい曲を スキップ／サーチ(⏮／⏭)ボタンで選び、再生／一時停止ボタンを押す =1曲リピート再生開始

曲を選んだ後、4秒以内に再生／一時停止ボタンを押してください。

※1曲リピート再生を解除するには、リピートボタンを3回押します(REPEATマークが消えます)。

全曲リピート再生

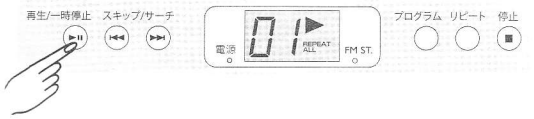
1 リピートボタンを2回押す

ディスプレイにREPEAT ALLマークが表示されます。

REPEAT ALLマーク

2 再生／一時停止ボタンを押す =全曲リピート再生開始

CD内の全曲が繰り返し再生されます。



※全曲リピート再生を解除するには、リピートボタンを2回押します(REPEAT ALLマークが消えます)。

ランダムに曲を再生するには

リピートボタンを3回押すとディスプレイにRANDOMマークが表示され、その後に再生／一時停止ボタンを押すとランダムに曲が再生されます。通常の再生中に操作した場合は、次の曲からランダム再生が始まります。

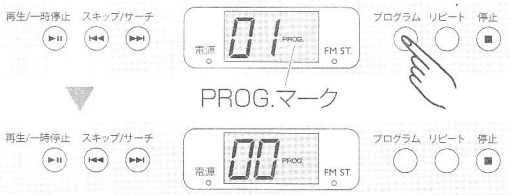
※ランダム再生を解除するには、リピートボタンを1回押してRANDOMマークを消してください。

RANDOMマーク

プログラム再生(CDの曲を並びかえて聴く)

1 CD停止中にプログラムボタンを押す

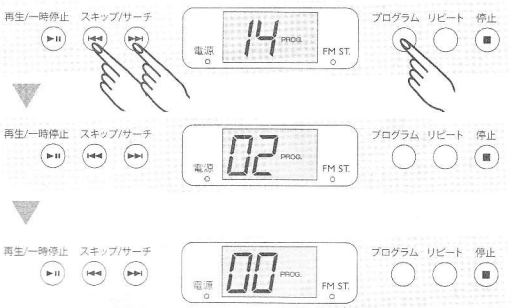
ディスプレイに「01」とPROG.マークが表示され、続いて「00」とPROG.マークが点滅します。



PROG.マーク

2 スキップ／サーチボタン(⏮／⏭)を押して、1曲目に登録したい曲番号選び、プログラムボタンを押す

曲番号を選んでプログラムボタンを押すと、「02」→「00」と表示され、2番目に登録する曲番号が選べる状態になります。

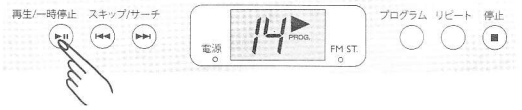


3 ステップ2の操作を繰り返して、聴きたい曲を順に登録する

最大20曲まで登録できます。

4 再生／一時停止ボタンを押す =プログラム再生開始

登録した順番で再生します。



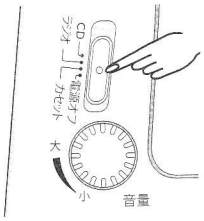
※停止ボタンを押すとプログラム再生が解除されます。

※記憶させる曲の順番をやり直したい時は、一度プログラムを解除してから、再度操作を行ってください。

※全曲リピート再生とプログラム再生を併用すると、プログラムした曲を繰り返し聴くことができます。

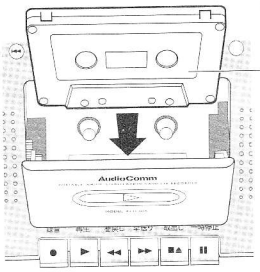
テープを聴くには

1 上面にあるファンクションスイッチをカセットの位置に合わせる



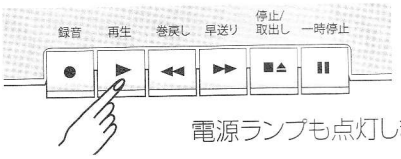
2 停止／取出しボタンを押してカセットドアを開け、再生面を手前／テープ面を下にしてカセットを入れる

正しく入れたらカセットドアを押して閉めます。



再生面を手前にして入れます

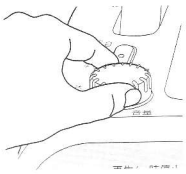
3 再生ボタンを押す＝再生開始

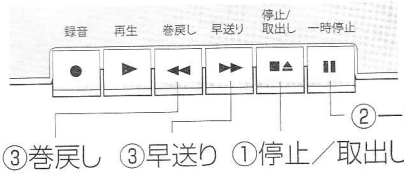


電源ランプも点灯します。

※再生中にカセットドアを強引に開いたり、再生ボタンと早送り／巻戻しボタンを同時に押さないでください。テープ破損や故障の原因となることがあります。

4 音量調整ツマミを回して音量を調節する



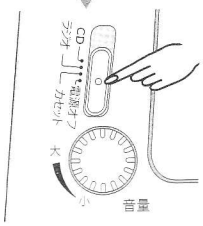


②一時停止

③巻戻し ③早送り ①停止／取出し

①再生を止めるには、停止／取出しボタンを押します。
②再生を一時停止するには、一時停止ボタンを押します。もう一度押すと再生を再開します。
③テープを早送り、巻戻しするには、早送りボタン、または巻戻しボタンを押します。

5 テープ再生を終了する時は、停止／取出しボタンを押してテープの再生を止めた後、ファンクションスイッチを電源オフに合わせる



電源ランプも消灯します。
※ファンクションスイッチでカセットが選ばれている時、カセットが停止状態では、電源オフとなります。

重要

セミオートストップ機能

カセットの再生／録音時に、テープが最後まで行くと自動的に操作ボタンが上がり動作終了します。ただし、早送り／巻戻しでは自動的に動作終了しません。故障の原因となることがありますので、早送り／巻戻し時は必ず停止ボタンで動作を終了させてください。

90分を超えるテープについて

90分を超える長時間テープの使用は避けてください。他のカセットテープに比べて非常に薄いため、のびたり機械に巻き込まれやすくなります。

カセットテープの取扱いかた

テープのたるみを取る

使用前にテープのたるみを取り除いてください。たるんでいるテープを使うと、テープが機械に巻き込まれて使えなくなることがあります。

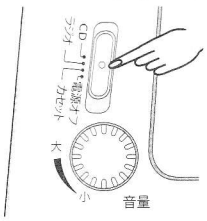
矢印の方向に鉛筆をまわす

ご使用になれるテープ

本機でお使いになれるテープはノーマルテープです。メタルテープやクロムテープは性能が十分発揮できません。

ラジオを聴くには

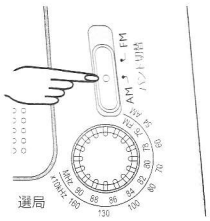
1 上面にあるファンクションスイッチをラジオの位置に合わせる



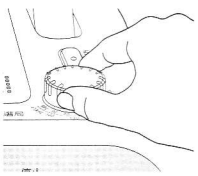
電源ランプが点灯します。

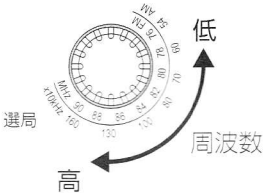
2 バンド切換スイッチでAMまたはFMを選ぶ

バンド切換スイッチはAMとFMの中間に止まらないよう確実に切換えてください。



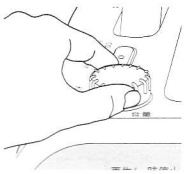
3 選局ツマミで聴きたい放送局を選ぶ



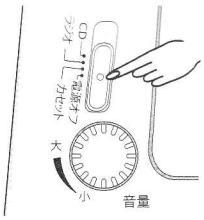


FMステレオ放送を良好な状態で受信するとFM ST.表示ランプが点灯します。

4 音量調整ツマミを回して音量を調節する



5 ラジオを終了する時は、ファンクションスイッチを電源オフに合わせる

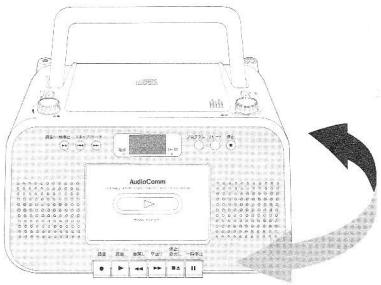


電源ランプも消灯します。

よりよく受信するために

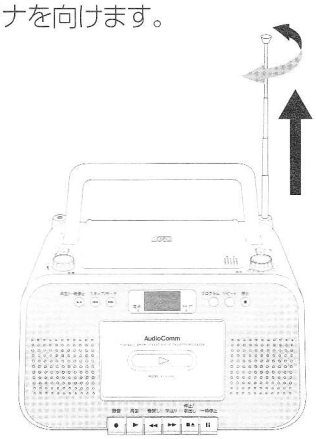
AM放送を聴く時は

アンテナが内蔵されていますので、いちばんよく受信できる方向に本機を向けます。



FM放送を聴く時は

ロッドアンテナを伸ばしていちばんよく受信できる方向にアンテナを向けます。

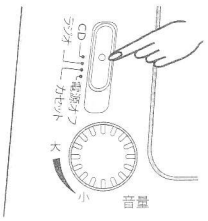


重要

テレビの近くでAMを受信すると、雑音が入ることがあります。また、室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このような時は、本機を離してご使用ください。

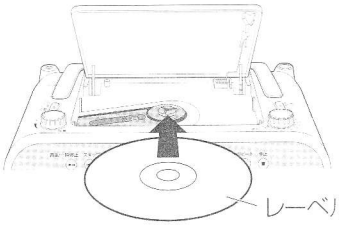
CDからテープに録音するには

1 上面にあるファンクションスイッチをCDの位置に合わせる



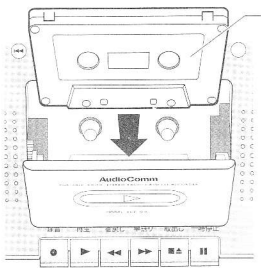
電源ランプが点灯します。

2 CDドア開閉スイッチを押してCDドアを開け、CDを正しくセットする



レーベル面を上にする

3 停止／取出しボタンを押してカセットドアを開け、録音面を手前／テープ面を下にしてカセットを入れる



録音面を手前にして入れます

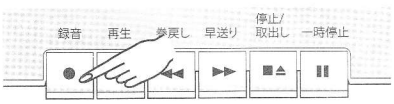
※カセットテープの両端のリーダーテープ部分は録音できません。録音前にこの部分を送っておきます。正しく入れたらカセットドアを押して閉めます。

4 録音したい曲をスキップ／サーチ(⏮／⏭)ボタンで選び、再生／一時停止ボタンを2回押す

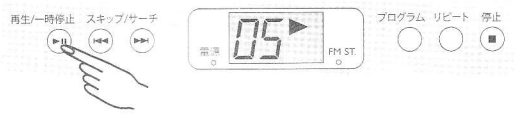
CDの再生が一時停止状態になります。

5 録音ボタンを押す=録音開始

カセットの再生ボタンも同時に下がり、録音状態になります。
すぐにステップ6に進んでください。

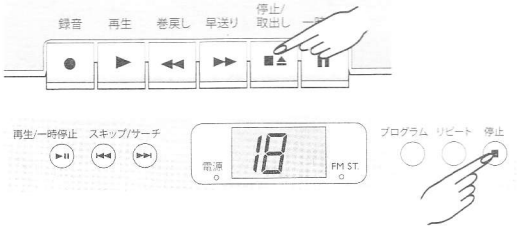


6 CDの再生／一時停止ボタンを押す

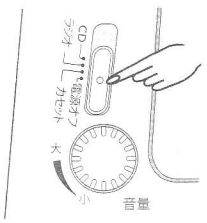


- CDの再生が始まり、テープに録音されます。
- 録音を一時止める時は、カセットの一時停止ボタンを押します。
- 再生中の音を聞きながら、録音できます。
- 録音中テープが終わると、自動的に停止します。
- 録音レベルは、自動調節で一定に録音されますので、録音時に音量調整ツマミを操作しても録音には影響がありません。
- テープが入ってない状態では、録音ボタンは押せません。
- 録音中は電源を切らないでください。故障の原因となります。

7 録音を終える時はカセットの停止／取出しボタンを押し、CDの停止ボタンも押す

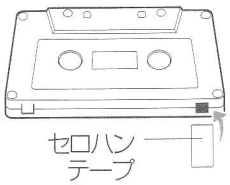


8 終了する時は、ファンクションスイッチを電源オフに合わせる



電源ランプも消灯します。

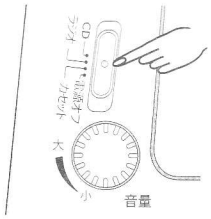
- 誤消去防止ツメを折ったカセットテープでは録音ボタンを押せません。無理に押すと故障の原因となります(一度ツメを折ってしまったテープに再び録音したい時は、セロハンテープなどで穴をふさいでください)。



- テープは60分以内のノーマルテープをご使用ください。

ラジオからテープに録音するには

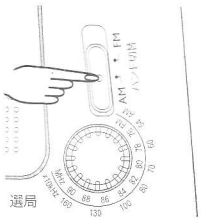
1 上面にあるファンクションスイッチをラジオの位置に合わせる



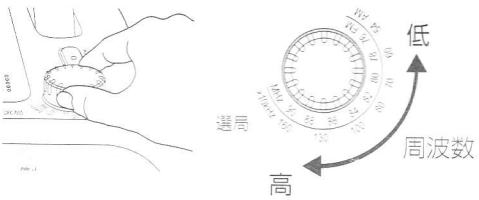
電源ランプが点灯します。

2 バンド切換スイッチでAMまたはFMを選ぶ

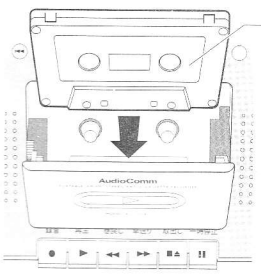
バンド切換スイッチはAMとFMの中間に止まらないよう確実に切換えてください。



3 選局ツマミで聴きたい放送局を選ぶ



4 停止／取出しボタンを押してカセットドアを開け、録音面を手前／テープ面を下にしてカセットを入れる



録音面を手前にして入れます

※カセットテープの両端のリーダーテープ部分は録音できません。録音前にこの部分を送っておきます。正しく入れたらカセットドアを押して閉めます。

5 カセットの一時停止ボタンを押す

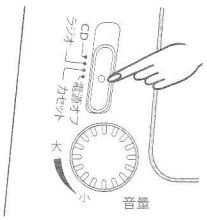
6 録音ボタンを押す＝録音待機

7 カセットの一時停止ボタンを押して録音待機を解除する＝録音開始

- 録音を一時止める時はもう一度一時停止ボタンを押します。
- ラジオの音声を聞きながら、録音できます。
- 録音中テープが終わると、自動的に停止します。
- 録音レベルは、自動調節で一定に録音されますので、録音時に音量調整ツマミを操作しても録音には影響がありません。
- テープが入ってない状態では、録音ボタンは押せません。
- 録音は電源を切らないでください。故障の原因となります。

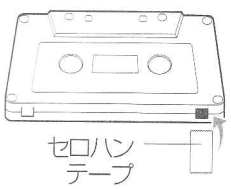
8 録音を終える時はカセットの停止／取出しボタンを押す

9 終了する時は、ファンクションスイッチを電源オフに合わせる



電源ランプが消灯します。

●誤消去防止ツメを折ったカセットテープでは録音ボタンを押せません。無理に押すと故障の原因となります（一度ツメを折ってしまったテープに再び録音したい時は、セロハンテープなどで穴をふさいでください）。



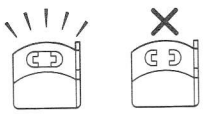
●テープは60分以内のノーマルテープをご使用ください。

お手入れのしかた

※お手入れの前には、あらかじめ電源コードや乾電池を外し、電源が入らないようにしておいてください。

ヘッド部の清掃について

ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーは長い間使っていると磁粉やゴミ、ホコリなどが付着して汚れてきます。汚れがひどくなると



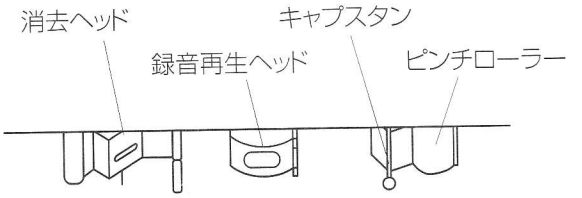
- ●音質が悪い
- ●音が小さい
- ●録音できない
- ●前の音が消えないで残る

などの症状が出ます。定期的にヘッド部を清掃してください。

ヘッド部の清掃方法

カセットドアを開け、別売のクリーニングキットでヘッドやピンチローラー、キャプスタンなどの汚れを拭き取ります。

なお、内部についたクリーナー液が十分に乾いてからテープをセットしてください。



ヘッドの消磁

長い間本機を使っていると、ヘッドが磁化されて高音が聴こえにくくなったり、雑音が増えることがあります。このような時は、ヘッドを市販の消磁器で消磁してください。

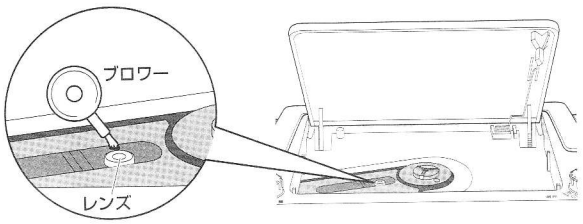
なおカセットタイプの消磁器をお使いになる時は、必ず再生ボタンのみを押し込んで消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。

※本機の消去ヘッドはマグネットタイプになっていますので消磁しないでください。

CDプレーヤーのレンズの清掃

レンズの汚れは、音飛びなど正常な再生ができなくなる原因になります。CDドアを開け、下図のようにレンズをクリーニングしてください。

- ●ホコリなどは市販のクリーニングキットのブロワーを使って、ゴミなどをはき出してください。
- ●万一指紋などがついている時は、市販のレンズクリーナーをお使いください。



キャビネットの清掃

- ●キャビネットやパネル操作面が汚れたら、柔らかい布で乾拭きしてください。汚れがひどい時には、水で布を湿らすか、中性洗剤を少し布につけて拭き、その後に乾拭きをしてください。
- ●電源コードのプラグにホコリがたまると、発火する危険があります。プラグをコンセントから抜いて時々清掃してください。

コンパクトディスクのお手入れ

演奏する前に、演奏面についたホコリやゴミ、指紋などを柔らかい布で拭き取ってください。必ず内側から外側に拭いてください。

- ●シンナーやベンジン、アナログレコード用のクリーナーやスプレー静電防止剤は絶対に使用しないでください。
- ●キャビネットやパネル操作面をシンナーやベンジン、アルコールなどで拭くと、変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。
- ●他の洗剤等をお使いになる時は、その注意書に従ってください。

故障かなと思ったら

	症　状	チェック項目
共通部	電源が入らない	電源コードが外れて(ゆるんで)いませんか。
		乾電池は正しく入っていますか。
		乾電池が消耗していませんか。
	正常な動作や表示をしない	電源をすべて抜いて表示が消えたのち、再度電源を入れてみましたか。
	音が出ない	音量が最小になっていませんか。
		ヘッドホンジャックにヘッドホンが差し込まれていませんか。
カセットデッキ部	カセットが入らない	逆向きに入れようとしていませんか。
	テープが走行しない	一時停止ボタンを押していませんか。
	テープが機械に巻きつく	ピンチローラーやキャプスタンが汚れていませんか。
		テープがたるんでいませんか。
		カセットドアがきちんと閉まっていますか。
	テープ走行が不安定	テープがたるんでいませんか。
		乾電池が消耗していませんか。
	雑音がひどい、音が震える 音飛びがする	乾電池が消耗していませんか。
		ヘッド部が汚れていませんか。
		テープがたるんでいませんか。
	録音ボタンが押せない	カセットが入っていますか。
		カセットの誤消去防止用ツメが折れていませんか。
		カセットドアがきちんと閉まっていますか。
	録音できない	ヘッド部が汚れていませんか。
	前の録音が完全に消去されない	消去ヘッドが汚れていませんか。
	テープの音が出ない	ファンクションスイッチが電源オフや別のファンクションになっていませんか。
CD部	CDの演奏が始まらない	CDが裏返しに入っていませんか。
		CDがひどく汚れていませんか。
		規格外のディスクが入っていませんか。
		レンズがひどく汚れていませんか。
		CDドアがしっかりと閉まっていますか。
		ファンクションスイッチが正しくCDになっていますか。
		乾電池が消耗していませんか。
	CDの音が出ない	一時停止状態になっていませんか。
	CDの音が飛ぶ	結露状態になっていませんか。
		レンズがひどく汚れていませんか。
		強い振動を与えていませんか。
		CDに大きなキズやひどい汚れはありませんか。
ラジオ部	ラジオに雑音が入る	近くで携帯電話を使用していませんか。
		テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると雑音が入ることがあります。また、テレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このような時は本機をテレビから離してください。

主な仕様

カセット部	
トラック方式	4トラック2チャンネルステレオ
録音方式	直流バイアス
消去方式	マグネット消去
テープ速度	4.76cm/秒±0.15
早送り・巻戻し時間	約150秒(60分テープ)
周波数特性	125Hz～6300Hz(ノーマルテープ)

CD部	
チャンネル	2チャンネル
S／N比	60dB
ワウ・フラッター	0.2%

ラジオ部		
受信周波数	FM	76～90MHz
	AM	530～1605kHz
アンテナ	FM	ロッドアンテナ
	AM	内蔵フェライトバーアンテナ

共通部		
実用最大出力	1.0W+1.0W(RMS)	
消費電力	10W	
出力端子	ヘッドホン(φ3.5mmステレオミニジャック)	
電源	AC 100V 50／60Hz	
	DC 9V(単1形乾電池6個)	
寸法	幅261×高さ162×奥行200 mm (突起物含まず)	
質量	約1780g(乾電池含まず)	
乾電池の寿命(目安)	マンガン乾電池の場合	アルカリ乾電池の場合
	ラジオ受信時 約12時間	ラジオ受信時 約10時間
	テープ再生時　約9時間	テープ再生時　約7時間
	CD再生時　約5時間	CD再生時　約5.5時間
付属品	電源コード、取扱説明書(保証書)	

※乾電池の寿命は、音量約3分目で使用した場合の目安です。乾電池の種類によって異なる場合があります。
※本製品の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。また本取扱説明書で使用する図版は、実際の機種と一部外観が異なっている場合があります。

保証書とアフターサービスについて

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容および「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有償修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。